

2012年7月20日(金) 18:30 開演

会場:札幌コンサートホール Kitara 小ホール(北海道)

全席自由: 会員・学生券 2,200円(一般2,500円)

会員・ペア券 4,000円(一般4,500円)

ピアニスト

島田彩乃さんってどんな人?



高校を卒業後パリに渡り 10 年間、その後ライブツィヒに移り 3 年間過ごして昨年帰国しました。外国で長年学び、感じとってきたことを日本の皆様にもお伝えできたら…という気持ちで演奏に臨んでいます。

外国のことは何かとお話する機会が多いので、今回はなかなかお話しすることのない小さい頃の自分についてを中心に書いてみました。

小さい頃は・・・

3 歳からピアノレッスンや音楽教室に通い始めましたが、4 歳になった頃、母がどなたかから紹介を受けたようで、ある日「厳しいピアノの先生のところに行こうと思うけど、ちゃんと頑張れる?」と尋ねてきました。「うん!」と即答したことを今でも憶えています。

その「厳しい先生」というのが、その後丸 10 年間お世話になる福岡幸子先生でした。厳しいけれども愛情溢れる先生で、子どもの可能性を心から信じ、幼稚園児の私に対して「音色をよく聴き分ける」ことを叩き込んでくださったり、指の形について毎回毎回本当に根気よく教えてくださいました。先生の教えは今でも私の「基本」であり、支えとなっています。

練習は、ハッキリ言って好きではありませんでした。毎日数時間「ピアノの練習」として決められた時間があり、それを過ぎて練習室に行く気配が無いと母がだんだん怖い顔になっていったのです。(笑)

それを見るのが嫌で、なんとか毎日練習を続けていたというのが正直なところ…。でも、音楽に限らず「練習が大好きな子ども」というのは恐らく珍しいのではないかと思います。そう思うと、厳しく私を引っ張ってくれた母には今とても感謝しています。あのとき練習をちゃんとしていなければ今の自分はないと思います。

しかし自発的に「今日はこういう練習をしよう!」などと考えてピアノに向かうようになったのは恐らく中学も後半になってからではなかったでしょうか…。今でも練習はなるべく「短時間集中型」で…という主義です。(笑)



島田彩乃さん CD《ドビュッシー/デュティユー/ラヴェル》

収録曲 ドビュッシー:前奏曲集第1集、デュティユー:ソナタ、ラヴェル:水の戯れ、ほか

CD販売価格 2,500円

「月刊ショパン」優秀盤 「レコード芸術」準推薦

●「月刊ショパン」誌評 2006年9月号 優秀盤

パリ音楽院修了の島田彩乃が三鷹市(風のホール)でおこなった録音(使用楽器:カワイフルコンサートピアノ SK-EX)。音が澄みきって美しい。ばかりでなくそれらが重なりからみあつての綾・陰影にも透明感が漂ってドビュッシーが印象派の風景画(たとえば『雪の上の足跡』はスレーの『ルーヴェルシエンヌの舞』)を彷彿とさせる。デュティユーもラヴェルも、ともに鮮烈の快美演。(宮岐邦雄)

●「レコード芸術」誌評 2006年6月号 準推薦

[演奏評]

奏楽のたたずまいには、一種のあたたかさ、聴きての心に寄り沿ってくるかのような、人なつこい魅力が感じ取れる。行きとどいた、瑞々しい秀演が公にされたことは、とても喜ばしい。(濱田滋郎)

[録音評]

2006年の1月、三鷹市芸術文化センター・風のホールで収録され、カワイのフルコンサートSK-EXが使われている。距離感的には少々近いものがあるが、それが安定感の高さ、音の図太さにもつながっているようだ。(石田善之)

曲目:
ドビュッシー
/前奏曲集 第1巻
デュティユー
/ソナタ
ラヴェル
/水の戯れ
/亡き王女のためのパヴァーヌ

ピアノ:島田彩乃
録音:2006年1月5・6日
三鷹市芸術文化センター(風のホール)

コンクールについて

コンクールには初めて参加したのは小学校2年生のとき。以来毎年「夏休み=コンクール準備」というサイクルとなりました。

子どもながらに、音楽の世界にゴールや正解がないことは自覚しており、漠然としたものに対してある意味“答え”を示してもらえるコンクールという存在は、私にとってやりがいのあるものでした。何か目標がある方が頑張りがいがある…というか。

ときには予選落ちして落ち込んだり、はたまた運良く入賞できれば飛び跳ねて喜んだりと一喜一憂していましたが、コンクールというのはその結果よりも、そこに向かって練習し、自分を高めていくという過程に意味があるのだということを学びました。結果はどうあれ、受けるたびに自分がステップアップしていく実感というのは、その後国際コンクールを受けるようになってからも続きました。これからコンクールを受けようとする方には、コンクールは決してゴールではないということを強くお伝えしたいです。「通過点」であり、「自分を磨くためのひとつの手段」です。音楽はとにかく自分との闘い。自分を人間としてどれだけ深められるかが音楽の深さにも大きく関わってきます。「音楽とは何か」という、終わりのないテーマを掲げ、それを生涯かけてピアノ演奏を通して追及していきたいと思っています。



小学校3年生のとき、町田こどもピアノコンクール
(現・全国町田ピアノコンクール)に出場した時の写真

趣味について

一日中ピアノに向かうことに慣れているせいか、基本的にインドア派なので、映画を観たり、ペットの犬や猫と戯れることが趣味と言えば趣味なのでしょうか…。車の運転も割と好きで、時々鎌倉や江の島方面へ行き、海を見たりします。リサイタル前など、練習していて頭がカーッとなってくると、犬猫を触ります。するとスッと心が和み、頭も冷静になり新たな気持ちで練習に復帰できるのです。私が小学1年生のときに猫を飼い始めて以来、島田家では犬か猫といつもの一緒に生活しています。ヨーロッパにいた間は旅が多かったのでペットは飼えずにいました。気分転換はもっぱら「お散歩」でしたね。

パリにもライブツィヒにも、少し歩けば広大な公園があり緑も美しく、天気の良い日には携帯音楽プレーヤーと楽譜を持って行き、公園やセーヌ川沿いのベンチで日光浴しながら勉強…というのはお気に入りでした。

演奏旅行など目的のある旅はとても好きで、ヨーロッパはフェスティバルやコンクール等のため、ほとんどの国を訪れました。美しい景色を写真に撮ることも趣味と言えるかな…？

その土地土地で美味しいものをいただくのももちろん大好きです！



防音室から出たくて
順番待ちをする癒し系2匹



自分が撮った写真の中でも
特に好きな写真 in ヴェネツィア

今回のプログラムについて

今回のプログラムは、まず今年生誕 150 年の記念の年というドビュッシーを是非取り上げたい！というところから考えました。本当は全編ドビュッシーにしたいぐらいではあるのですが、日本の、特にまだピアノを始めたばかりの方にはあまり馴染みのない作曲家だと思しますので、後半には、学生時代に取り組むことの多いであろうハイドンのソナタ、リストのため息、プロコフィエフのソナタ第 2 番という作品を置きました。私は高校を卒業してすぐフランスに渡り、“のだめちゃん”も通ったパリ国立高等音楽院にて研鑽を積みましたが、初めはドビュッシーやラヴェルは「綺麗だけどもまいち訳の分からない作曲家」という位置づけだったのです…。それが、フランスに実際住んでみて、パリの空気や日差しを感じ、セーヌ川沿いを散歩し、橋を渡り…という生活をして初めて、「あ、もしかしてドビュッシーもこの景色を見たり、このカラッとした空気を感じたり、この木の葉の色を見たりしていたのかな。」という考えが頭に浮かび、その日からドビュッシーの作品と向き合うと「この曲のこのハーモニーはこういう音色で演奏すると良いのかも?!」というアイディアが次々湧いてきて、練習も楽しく、ドビュッシーを演奏することがとても好きになりました。今回聴いていただく皆様にも、演奏を通してフランスの様々な風景を感じていただけたら、そしてドビュッシーを少しでも好きになっていただけたら嬉しいなと思います。



パリのアパート 2 軒目、芸術家寮に住んでいた時のベランダからの風景。こんな景色を毎日毎日見ていました。なんていう贅沢！



フェスティバルでの演奏が新聞に取り上げられたこともありました。

島田さんのもっと詳しい情報は公式サイトよりどうぞ

島田彩乃オフィシャルホームページ <http://ayanoshimada.online.fr/>

島田彩乃 (ピアノ) しまだ●あやの

横浜生まれ。3 歳よりピアノを始める。1989 年全日本学生音楽コンクール小学校の部第 2 位入賞。1997 年桐朋女子高等学校音楽科を首席卒業。同年、パルテノン多摩にて初リサイタルを開催。

ヴィアンナ・ダ・モッタ国際音楽コンクール最年少第 5 位入賞。1998 年パリ国立高等音楽院に首席入学。在学中、マシヤ・マシ国際コンクール第 3 位 (2000)、ジャン・フランセ国際音楽コンクール第 1 位 (2001)。

2002 年同音楽院卒業、研究課程に進学。トラニー国際ピアノコンクール第 1 位 (2003)、ベリーニ国際音楽コンクール第 2 位 (2003)。シドニー国際ピアノコンクール (2004) 第 4 位および特別賞受賞。2004 年同音楽院研究課程修了後、パリ・エコール・ノルマル音楽院にてさらに研鑽を積む。

2006 年にファースト CD 『ドビュッシー／デュティユー／ラヴェル』をリリース。作曲家デュティユー氏本人からも賛辞が贈られたほか、日大カザルスホールでの発売記念リサイタルとともに各誌にて非常に高い評価を得る。

同年、最高課程演奏家ディプロマを取得し同音楽院修了。2008 年よりドイツに拠点を移し、文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてライプツィヒ音楽演劇大学にて研鑽を積む。学内にてドイツ音楽を中心としたソロ・リサイタルを開催し、好評を博す。パリ在住時より、パリ・サル・コルトー、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス、フィレンツェ・ヴェッキオ宮殿等々内外にて演奏活動を行い、ヨーロッパ各国および南アフリカ、チュニジアのフェスティバルにもたびたび招かれる。2010 年横浜市招待国際ピアノ演奏会に出演。またシドニー交響楽団、ヨハネスブルグ管弦楽団等オーケストラとの共演、NHK-FM 『名曲リサイタル』等 TV・ラジオ出演など、多岐に亘った活動を展開している。

レパートリーの広さに加え、豊かな感性と美音は同世代のピアニストの中でも群を抜いており、またソロのみならず室内楽にも積極的に取り組み、国際的に活躍する演奏家と多数共演、その豊富な知識と経験から共演者からの信頼も厚い。2011 年より拠点を日本に移し、上野学園にて後進の指導にあたりと同時に精力的に演奏活動をおこなう。

6 月には津田ホールにて帰国記念リサイタルを開催、各誌にて非常に高く評価されるなど、今後の活躍に期待が高まる。これまでに故福岡幸子、須田眞美子、ジャン＝フランソワ・エッセール、アキレス・デル＝ヴィーニュ、ジャン＝クロード・ペヌティエ、ゲラルト・ファウツの各氏に師事。上野学園大学ピアノ非常勤講師。